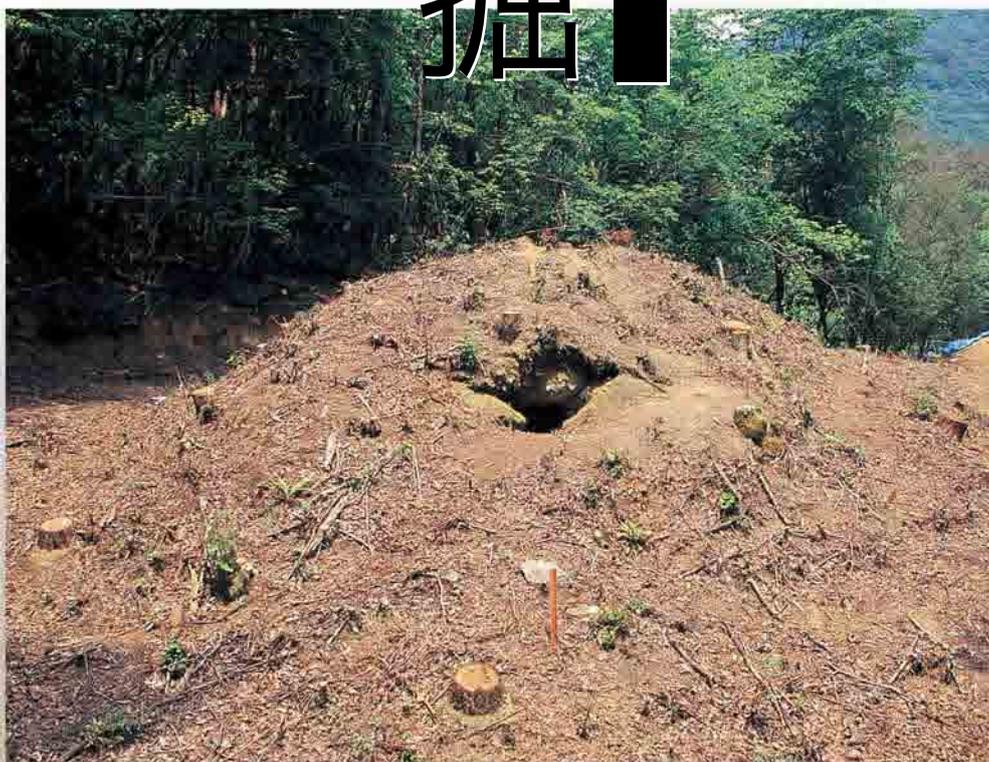


塔の岡第6号古墳発掘調査後

第23回文化財展

古墳発掘

あきのくに
安芸国のルーツをさぐる



塔の岡第6号古墳発掘調査前

目次

プロローグ	1
I ヤマトとのつながり—前期— ...	2
前方後円墳出現	
配られた鏡 —三角縁神獸鏡—	
・古墳出現以前のひろしま	
出土品をみる	
・よみがえる古墳人	
II 安芸のまとまり—中期—	7
巨大になる古墳	
武人の眠る古墳	
出土品をみる	
III 国家の時代へ—後期—	11
群集する古墳	
出土品をみる	
・須恵器工房	
消えゆく古墳	
古墳から寺へ	
安芸国誕生	15

ごあいさつ

3世紀後半頃に奈良盆地に突然出現した、山と見まがうほどの巨大な墓、それが「古墳」です。古墳の築造は、やがて青森から鹿児島まで広がり、その後7世紀頃まで続きました。この約400年間こそが「古墳時代」です。

古墳時代は、列島の各地でムラが集まりクニが誕生した弥生時代と、律令国家が完成した奈良時代をつなぐ、まさに日本の国の基礎が徐々にでき上がった時代でした。そして、私達の郷土ひろしまのルーツともいべき「安芸国」^{あきのくに}がその姿を現したのも、この時代だったと考えられています。

広島市教育委員会・(財)広島市文化財団では、これまで広島市内の数多くの古墳を発掘調査してまいりました。今回の文化財展では、これらの発掘調査で得られた出土品や情報を中心に、さらにこれまで広島市域で発見された古墳時代の品々を展示し、ひろしまの古墳時代と「安芸国」の成立に迫ります。日頃お目にかける機会の少ない発掘調査の成果をご覧いただき、市民の皆様が郷土の歴史に対する理解を深めるお役にたてれば幸いです。

このたびの文化財展を開催するにあたり、ご協力いただきました関係諸機関、関係者の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成12年11月

広島市教育委員会
(財)広島市文化財団

プロローグ

Prologue

3世紀後半、ヤマトの地（現在の奈良盆地南東部）で、全長280mにおよぶ巨大な墳丘を持つ最初の古墳＝箸墓古墳が現れました。上空から見ると、かぎ穴の形（前方後円形）をした墳丘を持つこの古墳の出現により、古墳時代が始まります。

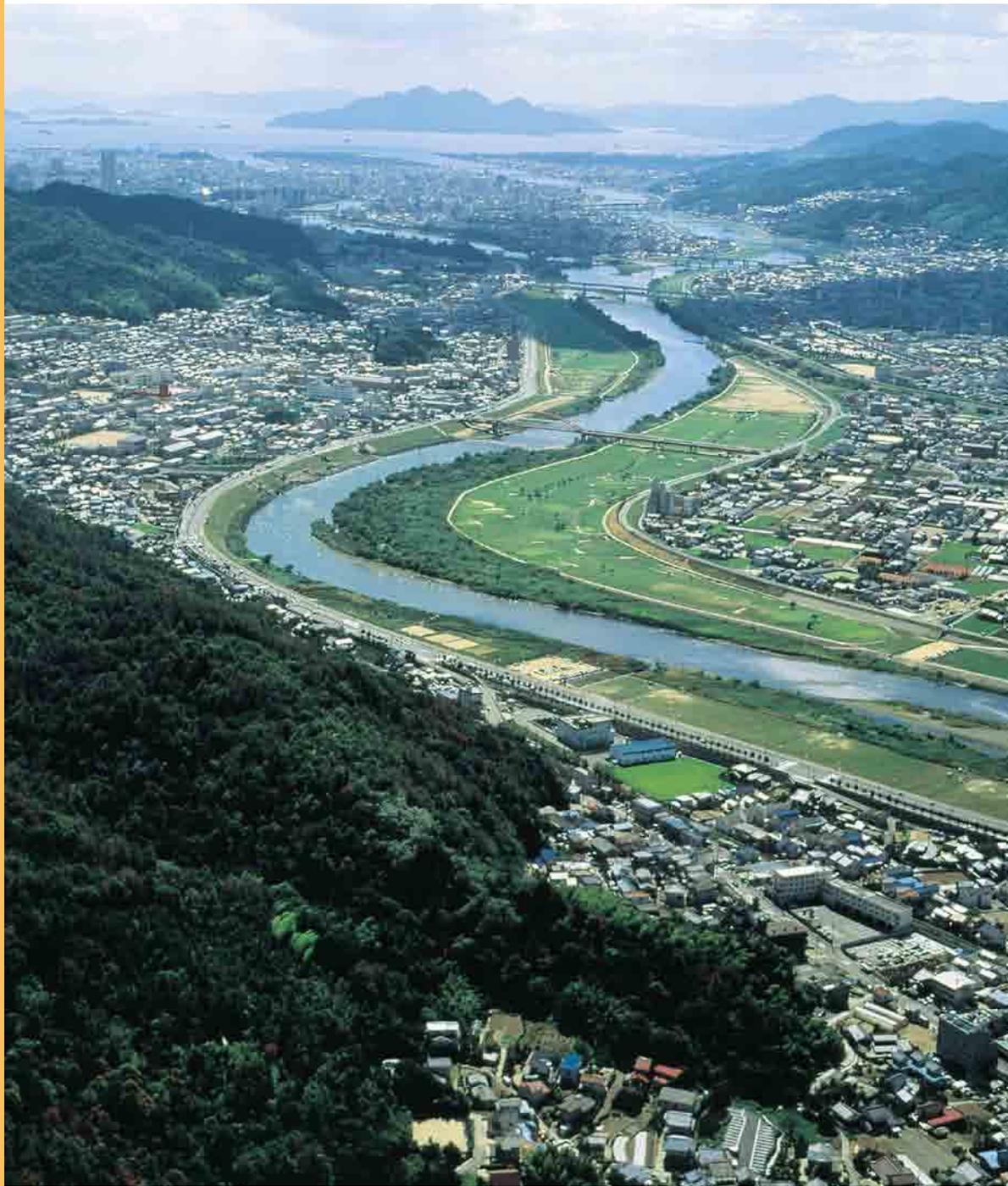


箸墓古墳
(奈良県 桜井市教育委員会)

■ 関連年表と各コーナーの年代

奈良時代	飛鳥時代		古墳時代				弥生時代		時代区分																										
	終末期		後期	中期	前期																														
	7世紀		6世紀	5世紀	4世紀	3世紀																													
710	701694	670668	646645	604603	593	588	538	527	478	462	443	438	421	391	372	350	300	266	239	200	出来事														
平城京へ遷都		藤原京へ遷都 大宝律令制定		大化の改新 大化の薄葬令 近江令制定(日本最初の令) 庚午年籍(日本最初の戸籍の作成はじまる)		冠位十二階の制定 十七条の憲法が制定される		聖徳太子、摂政に就く		法興寺(飛鳥寺)の建立が開始される		記録上の仏教伝来(527年説、552年説もあり)		倭王武、宋に朝貢を行う		倭王興、宋に朝貢を行う		倭王珍、宋に朝貢を行う		倭王濟、宋に朝貢を行う		倭王護、宋に朝貢を行う		戦いがはじまる		百濟の要請で朝鮮半島に出兵、高句麗との戦いがはじまる		百濟王、倭王に七支刀を贈る		邪馬台国の女王吉士、西晋に使いを送る		邪馬台国の女王卑弥呼、魏に使いを送り、金印・銅鏡100枚等を授かる			
高松塚古墳(奈良県)		合葬陵・奈良県 檜隈大内塚(天武)持統天皇 合葬陵・奈良県		石舞古墳(奈良県)		藤ノ木古墳(奈良県) 見瀬丸山古墳(欽明陵)奈良県		岩戸山古墳(箸井の墓)福岡県		今城塚古墳(大阪府) 江田船山古墳(熊本県) 埼玉稲荷山古墳(埼玉県)		大山古墳(佐賀県) 寺山第3号古墳(佐賀県) 城ノ下第1号古墳(佐賀県) 空見第1号古墳(佐賀県)		造山古墳(岡山県) 菅田御廟山古墳(佐賀県) 大阪府)		森野軍塚古墳(長野県) 渋谷山古墳(佐賀県)		行燈山古墳(佐賀県)		黒塚古墳(奈良県) 榑井大塚山古墳(京都府)		箸墓古墳(奈良県)		新吉古墳(安芸県) 藤の岡第1号古墳(安芸県) 可部古墳群(安芸県) 和田古墳(佐伯市) 梅水平古墳(本郷町) 笠原古墳群(佐伯市) 御年代古墳(本郷町)		西尾古墳(安芸県) 長原第1号古墳(佐賀県) 私住第1号古墳(佐賀県) 三原古墳(佐賀県) 二ツ城第1号古墳(佐賀県) 中田第2号古墳(佐賀県) 池の内第2号古墳(佐賀県) 寺山第3号古墳(佐賀県) 城ノ下第1号古墳(佐賀県) 空見第1号古墳(佐賀県)		倉重山古墳(佐賀県) 補宮山第1号古墳(佐賀県) 中田第1号古墳(佐賀県)		成岡第3号古墳(佐賀県) 私住第3号古墳(佐賀県) 宇那木山第2号古墳(佐賀県)		全国的な古墳		ひろしまの主な古墳	
安芸国誕生			Ⅲ 国家の時代へ			Ⅱ 安芸のまとまり			Ⅰ ヤマトとのつながり			展示																							

—ヤマトとのつながり—前期—



中小田古墳群（手前尾根）から広島湾をのぞむ

(写真：井手 三千男氏 提供)

前方後円墳出現

古墳時代前期、ひろしまにおける最古級の前方後円墳である中小田第1号古墳が造られました。竪穴式石室を持ち、ヤマトとのつながりを示す三角縁神獣鏡や車輪石といった品が副葬されたこの古墳には、当時のひろしまをまとめていた首長が葬られたのでしょう。

古墳時代前期のひろしまでは中小田第1号古墳以外にも、首長が葬られたと考えられる宇那木山第2号古墳・神宮山第1号古墳の2基の前方後円墳が造られています。これら3基の前方後円墳のいずれもが、現在よりも内陸にあったと考えられる太田川河口付近の丘陵上に位置していることから、葬られた人物は水運による交易に関わり大きな力を持っていた首長ともいわれています。



主な前方後円墳

- q 弘住第1号古墳
- w 中小田第1号古墳
- e 長尾第1号古墳
- r 宇那木山第2号古墳
- t 神宮山第1号古墳
- y 倉重向山古墳

配られた鏡 —三角縁神獣鏡—

中小田第1号古墳で見つかった三角縁神獣鏡とは縁の断面が三角形で、裏面に神や獣の像の模様を鑄出した銅製の鏡のことです。三角縁神獣鏡は、前期の古墳の副葬品として見つかる例が多く、中でも京都府椿井大塚山古墳や奈良県黒塚古墳などで大量に出土しています。この鏡には同じ鑄型から作られた、いわば「兄弟」の鏡（同范鏡）があることがわかっています。この兄弟鏡の分布を調べると、その中心に近畿地方があることがわかりました。このことから、三角縁神獣鏡は各地方の首長に連合政権に参加したあかしとして配られた品だと考えられています。中小田第1号古墳で出土した三角縁神獣鏡も、椿井大塚山古墳や黒塚古墳の出土鏡などと「兄弟」鏡であることがわかっています。

■ 椿井大塚山古墳・黒塚古墳出土鏡と兄弟の鏡を持つ古墳等の分布地図



車輪石や石鈿を含む石製の腕飾りも、近畿地方の古墳から多く出土していることから、近畿地方から地方に配られたものと考えられています。車輪石とは、古墳時代前期に作られた緑色凝灰岩や珪板岩製の腕輪です。弥生時代のカサガイ製の腕輪を元に作られたものですが、実用品としてではなく、マツリゴトに使われていたと考えられています。



竪穴式石室
(安佐北区中小田第1号古墳)

前期の古墳の代表的な埋葬施設が、竪穴式石室です。墳丘上に穴を掘り、粘土で床を造り、遺体を収めた木棺を据え、その周りに石を積み上げ、天井を覆う構造になっていました。木棺は、割竹形木棺と呼ばれる丸太を縦に半分に割って中をくり抜いたものが用いられ、人の身長よりはるかに長い木棺の痕跡も数多く見つっています。そのため長さが8m以上に達する石室も造られています。



竪穴式石室と割竹形木棺
(奈良県下池山古墳 奈良県立橿原考古学研究所)

古墳出現以前のひろしま

古墳が登場する前、弥生時代におけるひろしまの遺跡で発見された墓には、墓穴の中に直接遺体を葬るもの、木棺を据えるもの、箱形石棺を造るものなどの種類がありました。これらの墓は、同じ尾根の上に分けへだてなく造られていました。それが弥生時代後期後半になると、同じ尾根の上でも、ある集団の墓だけは特別な区画の中に造られたものが出てきます。この変化は、階層差がなかった集団の中に、次第に一握りの有力者層が現れてきたことを示していると考えられています。さらに時代が下ると、ひとつの尾根を特定の人物だけを葬るための墓域とし、墳丘を築いた墓が現れます。



弥生時代の一般集団墓
(佐伯区平尾遺跡)



弥生時代の有力集団墓
(安佐北区梨ヶ谷遺跡)

出土品をみる

古墳時代前期の古墳の副葬品は、鏡や勾玉などの玉類といったマツリゴトに関わるものが多い傾向にあります。このことから、この時期の首長は儀式をとりおこなう役目も担っていたと考えられています。

太田川西岸にある前方後円墳、宇那木山第2号古墳と神宮山第1号古墳。そこから出土した画文帯神獣鏡と内行花文鏡片はいずれも古い形式の鏡で、中小田第1号古墳と同じくひろしまで最古級の古墳と考えられています。



画文帯神獣鏡

(安佐南区宇那木山第2号古墳 広島大学文学部考古学研究室)

鏡の内側には神獣像を配置し、外側には円周に沿って獣や雲などを含む帯状の文様を巡らせた鏡です。三角縁神獣鏡より、時期的に少し前の鏡であると考えられています。



内行花文鏡片

(安佐南区神宮山第1号古墳 広島大学文学部考古学研究室)

内向きに弧文が連ねられた文様をもつ鏡です。この鏡の破片には2つの穴があげられており、ペンダントとして再使用されたようです。



仿製四獣形鏡 (安佐南区芳カ谷第1号古墳)

この鏡は中国鏡を真似て作った国産の鏡です。

石釧

(安佐北区大明地第1号古墳 広島県教育委員会)

(写真：(財)広島県埋蔵文化財調査センター 提供)



鉄鍬形鉄製品

(安佐北区弘住第3号古墳)

この鉄器は実用品ではなくマツリゴトに使われたと考えられています。



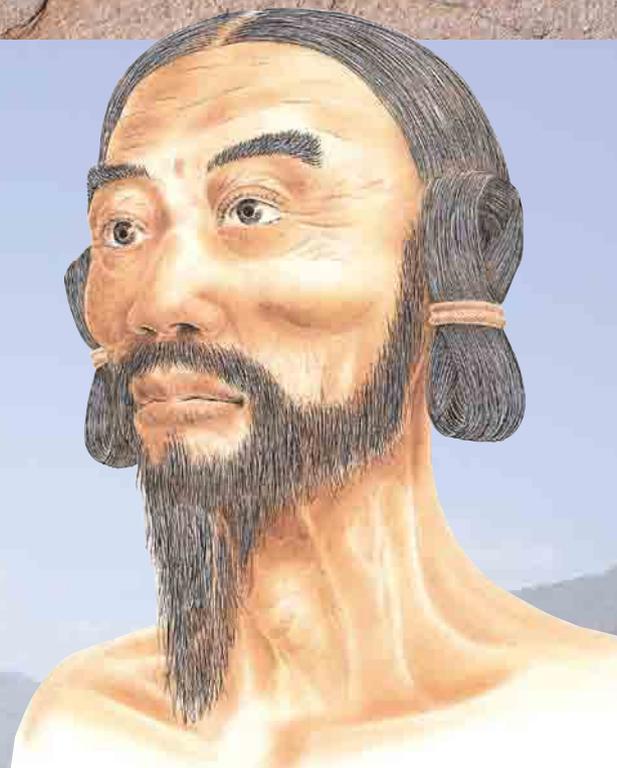
玉類 (安佐南区芳カ谷第1号古墳)

よみがえる古墳人

平成11年度に発掘調査を行った安芸区中野東の成岡第2号古墳の石棺には、非常に保存状態の良い人骨が残っていました。石棺の石の隙間が粘土でしっかりとふさがれ、土や水が流れ込まなかったからです。

この人骨は、身長161.5cm、がっしりした体格の老年(60才以上)男性のもので、顔の幅が広く、精悍な顔つきをしていたようです。また、すねの骨が太くしっかりしていることから、ひんばんに船に乗っていた人物である可能性も考えられています。広島湾周辺において、漁業や水運を生活の基盤としていた集団のリーダーだったのでしょうか？

このたび、この骨を元に埋葬された人物の顔を復元しました。髪形は、はっきりわからないため、人物埴輪などから当時の有力者の髪形と考えられる「みずら」という髪形で復元しました。



古墳人の復元イラスト
(安芸区成岡第2号古墳)

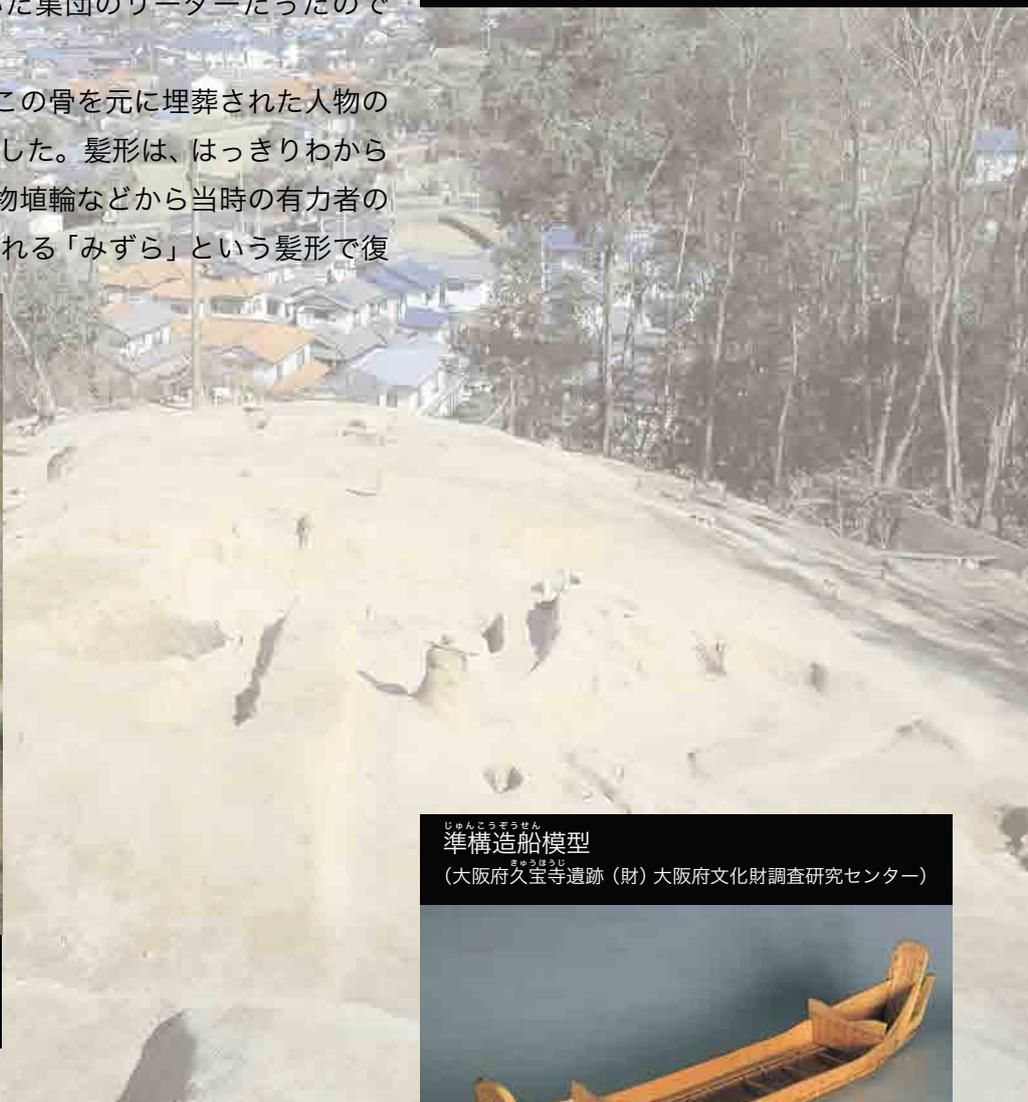
専門家が骨の様々な部分を計測し、人類学的な特徴から復元を行いました。



人骨の出土状況 (安芸区成岡第2号古墳)

頭骨には呪術的な思いの込められた赤色顔料が残っていました。

成岡A地点遺跡より瀬野川を望む



準構造造船模型

(大阪府久宝寺遺跡(財)大阪府文化財調査研究センター)



II 安芸のまとまり — 中期 —



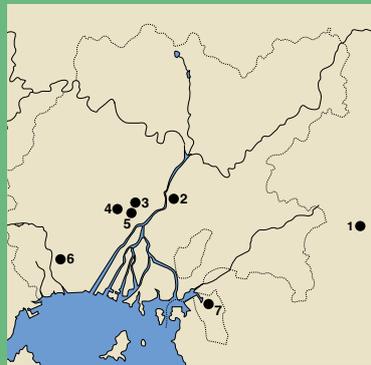
三ツ城古墳群

(東広島市 東広島市教育委員会)

巨大になる古墳

5世紀になると、西条盆地(東広島市)に巨大な前方後円墳である三ツ城第1号古墳が出現します。この古墳は古墳時代を通して安芸地域(現在の広島県西部)で最大の大きさを誇っています。

この時期の安芸の各地では、その土地を治める中小の首長たちが盛んに古墳を造りました。三ツ城第1号古墳の被葬者こそ、これらの中小首長たちをたばねる人物であり、彼を中心に安芸地域は政治的にまとまり、後の「安芸国」の原型を形作ったと考えられています。また、三ツ城第1号古墳の被葬者は、畿内の政権から安芸地域をまとめることを認められた「安芸国造」ともいわれています。



この時期の主な古墳

- q 三ツ城第1号古墳
- w 中小田第2号古墳
- e 三王原古墳
- r 空長第1号古墳
- t 池の内第2号古墳
- y 城ノ下第1号古墳
- u 西尾古墳

5世紀は巨大古墳の時代とまでいわれ、一部の有力者はその地域ごとに巨大な古墳を造りました。こうした動きは全国各地でみられることから、首長はより大きな前方後円墳を造ることで他の地域に自らの権力を示したのでしょう。



だいせん
大山古墳

(堺市広聴広報課)

畿内では、大山古墳(伝仁徳陵)^{こんたく}・善田御廟山古墳(伝応神陵)^{おつじん}にみられるように、全長400mを超えるものまで造られました。



三ツ城第1号古墳 (東広島市 東広島市教育委員会)

三ツ城第1号古墳は全長約92mの前方後円墳です。3段に築かれた墳丘の各段には円筒埴輪が、墳丘の上には鶏や馬・青などの形象埴輪がたてられ、全体では約1850本もの埴輪が使われています。墳丘の横には祭壇と考えられる方形の区画(造出)があり、後円部の墳頂には箱形石棺の周りをさらに石で囲った特殊な埋葬施設2基と箱形石棺1基が造られていました。



復元形象埴輪列

(東広島市三ツ城第1号古墳

東広島市教育委員会)



造出から出土した器台

(東広島市三ツ城第1号古墳
東広島市教育委員会)

埴輪とは?

埴輪は古墳に立ち並べられた焼き物です。ひろしまでも安佐南区池の内第2号古墳や安芸区狐が城古墳など数か所の古墳で円筒埴輪や朝顔形埴輪・家形埴輪などが出土しています。



市内出土の埴輪

(安佐南区池の内第2号古墳 広島大学文学部考古学研究)



円筒埴輪の破片

(安芸区狐が城古墳)

武人の眠る古墳

三ツ城第1号古墳などの大きな古墳が造られた中期は、前方後円墳をシンボルとしたヤマトを中心とする連合が列島の内外で最も活発に勢力の拡大を図った時代で、「倭国」が国内を武力で統一していった様子や中国に朝貢したことなどが中国の歴史書などに記されています。いっぽうひろしまでは、この頃（5世紀後半）の古墳として城ノ下第1号古墳や中小田第2号古墳など、墳丘の規模は小さいながらも、短甲・鉄剣・鉄鏃などの豊富な武器具類が副葬された古墳が何ヶ所も見つかっています。これらの古墳の被葬者は、三ツ城第1号古墳の被葬者のもとで、武人として前線に立ち活動した小地域を治める首長かもしれません。



復元された素環頭大刀

(上:実物 中:復元刀身 下:鞘付復元品 広島県立歴史民俗資料館)
安佐北区地藏堂山第1号古墳の出土大刀をもとに現在の刀鍛冶が復元しました。



横矧板鉾留短甲

(佐伯区城ノ下第1号古墳)



復元された短甲



城ノ下第1号古墳主体部 (佐伯区)

城ノ下第1号古墳からは、横矧板鉾留短甲・鉾・剣・刀・83点もの鏃など様々な鉄製武器具をはじめ、刀子・斧・やりがんな・鎌などの鉄製農具が出土しています。また、玉類・金銅製の髪飾りなどの装飾品も出土しています。



横矧板鉾留衝角付冑

(安佐北区中小田第2号古墳
広島大学文学部考古学研究室)

短甲とは古墳時代の代表的な「よろい」の一種です。ひろしまの古墳から出土した短甲は、いずれも鉾留短甲でした。この鉾留技法は朝鮮半島から伝わった先端の技術で、厳密な設計図と高い鍛造技術が必要となります。鉾留短甲は畿内の工人集団が製作し、地方に配付されたもので、受領した人物は畿内政権の軍事的組織の一翼を担った人物ではないかと考えられています。



甲冑出土状況

(大阪府野中古墳 北野 耕平氏)

出土品をみる

古墳時代中期の古墳の副葬品は、前期の鏡や玉類などマツリゴトに関わるものから、多数の鉄製武器などの軍事に係わるものが増えていきます。



鉄製農具類

(安佐南区寺山第3号古墳)

この時期のひろしまの古墳は、鉄製武器類の他にたくさんの鉄製農具も出土しています。寺山第3号古墳からは刀や鏃などの鉄製武器類のほか、鎌・斧・鋤先などの鉄製農具が出土しています。



鉄鏃 (安佐南区権地古墳)

蛇行剣身 (右上) と鉄剣 (左下)
(安佐南区空長第1号古墳)

蛇行剣身とは剣身が緩やかにまがった剣身で全国的にも類例が少なく、呪術的な機能を付加された武器ではないかと考えられます。



めっきがされた短甲の蝶番金具
(安芸区西尾古墳 広島市矢野公民館)

西尾古墳からは短甲の蝶番の部分出土しました。蝶番の留め金具は金銅で作られており、金めっきが施されていたと考えられています。

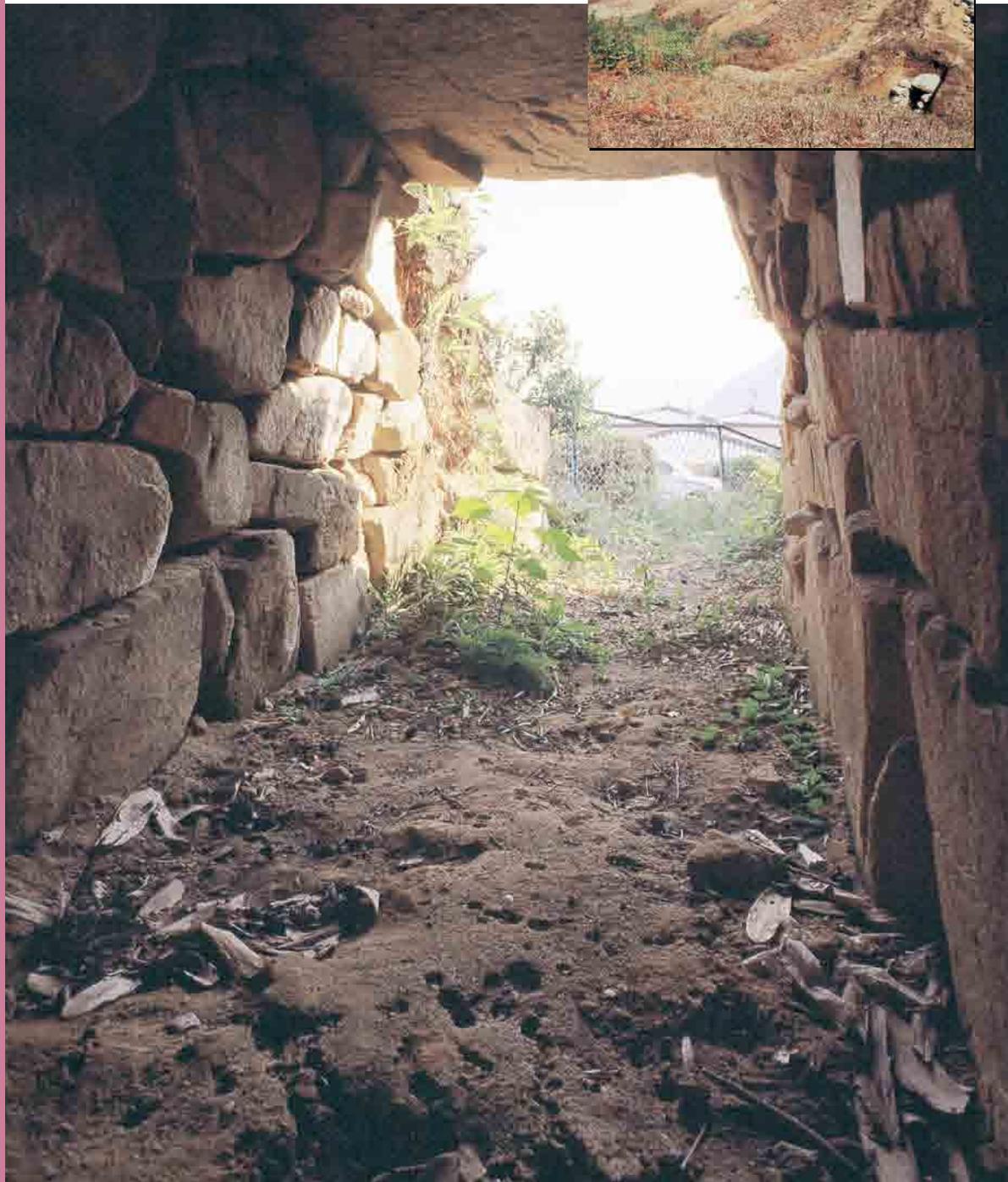
金銅製髪飾り (左) と復元品 (右)
(佐伯区城ノ下第1号古墳)

城ノ下第1号古墳からは国内では例のない金銅製の髪飾りも出土しています。この出土品も、被葬者と畿内政権との強い結びつきを物語っています。



川 国家の時代へ ― 後期 ―

群集墳
(大阪府一須賀古墳群 大阪府立近つ飛鳥博物館)



青第3号古墳石室内より (安佐北区)

群集する古墳

6世紀になると、安佐北区可部町や白木町の山中に、横穴式石室を埋葬施設にもつ小型の古墳が集中して多数造られるようになります。このような小型の古墳の集まりを群集墳ぐんしゅうふんといい、全国各地で6世紀から7世紀にかけて造られていきます。

5世紀までの古墳はごく一部の人たちのものでした。この時期に古墳が増加したのは、より広い階層の人々にも古墳を造ることが認められたためであり、畿内の政権の影響が地方の末端まで浸透したことを示しているとも考えられています。



この時期の古墳

- q 塔の岡古墳群
- w 給人原古墳群
- e 青古墳群
- r 新宮古墳
- t 和田古墳



横穴式石室は大陸から伝わってきた新しい埋葬方法で、遺体を安置する部屋（玄室）と、外部と玄室を結ぶ通路（羨道）で構成されます。6世紀に入ると、この埋葬方法は急速に広まり、ひろしまでも造られるようになります。

それまでの竪穴式石室と違い、横穴式石室には入り口があり、同じ石室に何回も埋葬したことがわかります。

横穴式石室の普及によって、古墳は一人のための墓から、家族のための墓へと変化し、政治的象徴としての役割が薄れていきます。

塔の岡第1号古墳（安佐北区）



新宮古墳（安芸区）



青第3号古墳（安佐北区）

出土品をみる

古墳時代後期の古墳の副葬品は、実用品やきらびやかな装飾品など、故人が生前に用いていた品々が納められるようになります。



金環
（安佐北区給人原古墳群
広島県立可部高等学校）
（写真：井手三千男氏 提供）



銀環
（安佐北区塔の岡第1号古墳）

耳環には金環や銀環・銅環などがあります。塔の岡第1号古墳から出土した耳環は、いずれも青銅の芯に銀を貼りつけた銀環です。



首飾り（安芸区新宮古墳）



韓国出土の把手付壺
(天理大学附属天理参考館)



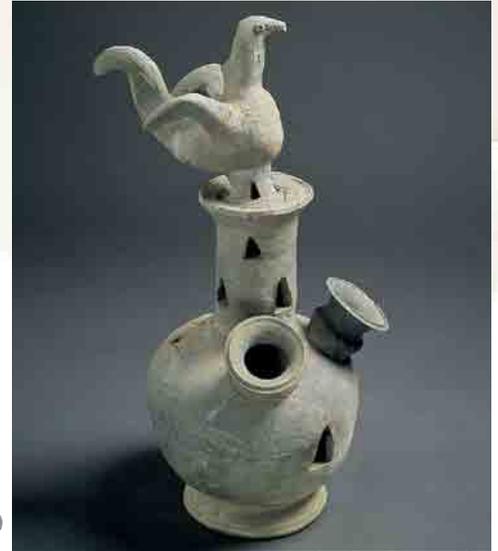
市内出土の把手脚付短頸壺
(安佐南区池の内第3号古墳)

5世紀以降の古墳からは青灰色の土器＝須恵器が出土します。

須恵器の技術は、朝鮮半島から伝わり、最初の須恵器は大阪府南部にあった陶邑などで独占的に造られ、畿内政権によって流通を管理されていたと考えられています。そのため、須恵器の分布は、群集墳とともに地方が畿内政権の影響下にあるかどうかの目安の一つとなるのです。



様々な形の須恵器
(安佐北区塔の岡第1号古墳)



鳥付子持装飾壺
(千代田町石塚第2号古墳
広島県立歴史民俗資料館)

須恵器工房

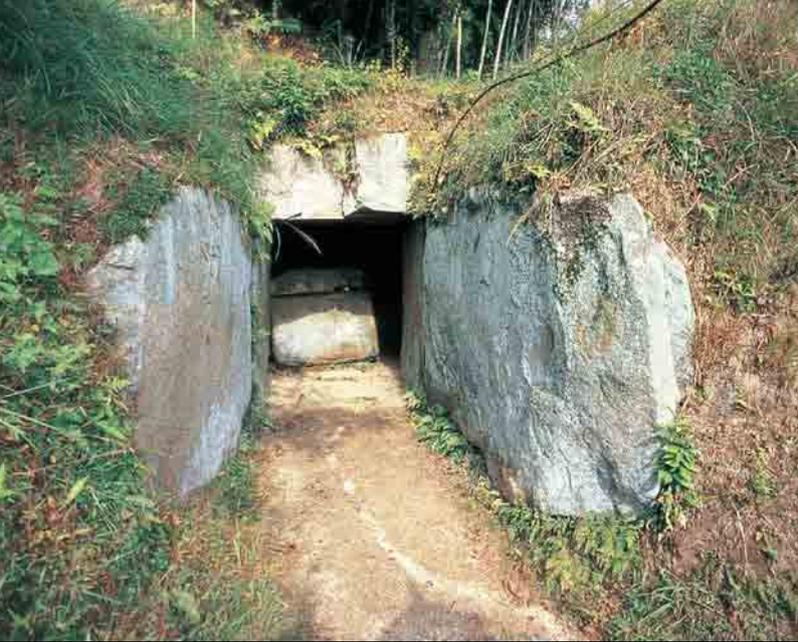
須恵器がそれまでの焼き物の作り方と比べて進歩した点は、穴窯を使用して焼いた点です。

穴窯は、ゆるやかな斜面をトンネル状に掘り込んで築きました。窯を使うため、熱を逃がさず、1200度の高温に達します。そして最終段階で、焚き口を閉じ、酸素の供給を不十分にして燃やすことで、頑丈で割れにくく、水漏れが少ない土器ができ上がります。またこの時、酸素がなくなり還元されるため、青灰色に仕上がります。

広島市内では、古墳時代の窯跡は今のところ見つかっていませんが、県内では、三次市の松ヶ迫遺跡群を始め、窯跡がいくつか発見されています。



窯跡 (三次市松ヶ迫D地点遺跡第2号窯 広島県立歴史民俗資料館)



御年代古墳石室 (本郷町 本郷町教育委員会)

7世紀の安芸地域の東部(現在の豊田郡本郷町)では、石棺の石材などから、畿内の大豪族との関連が指摘される全国的にも珍しい古墳が造られました。御年代古墳は、その代表的な古墳で、玄室が前後二つの部屋に分かれており、切石を用いて石室・石棺を築いています。

消えゆく古墳

593年、推古天皇の摂政として登場した聖徳太子によって、中国の制度を手本とした天皇中心の国家体制が徐々に整え始められます。この動きは645年、中大兄皇子らによって断行された大化の改新によって、さらに急速に押し進められていきます。その一貫として発布されたのが、大化の薄葬令はくそうれいです。古墳の築造を制限することで、天皇の権威をさらに高めることを目的としたこの法律が施行された結果、古墳は次第に築造されなくなります。

古墳の築造は、その誕生から消滅まで、国づくりの様子を語ってくれるのです。



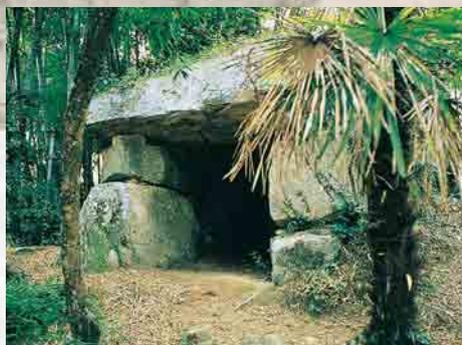
高松塚古墳壁画

(奈良国立文化財研究所飛鳥資料館)

古墳が終りを近づけようとする7世紀末の古墳で、壁面には四神という想像上の動物や人物が描かれています。

古墳から寺へ

6世紀に大陸から伝わった仏教は、次第に人々の信仰を集めていきます。7世紀後半になると、畿内では古墳に代わって寺院建築が大変盛んになり、やがて地方にも波及していきました。



梅木平古墳 (本郷町 本郷町教育委員会)



横見廃寺

(本郷町 (財) 広島県埋蔵文化財調査センター)



寺院の瓦

(本郷町横見廃寺 広島県教育委員会)

(写真: (財) 広島県埋蔵文化財調査センター 提供)



寺院の瓦

(安佐南区光見寺跡 立専寺)

現在の豊田郡本郷町で発見された横見廃寺は、安芸国では最も古く7世紀後半に造られ、7世紀初頭に造られた梅木平古墳の近くに位置することから、この古墳に葬られた有力者の子孫が建てた氏寺と考えられています。広島市内では7世紀の寺院跡は見つかっていませんが、8世紀(奈良時代)のものとしては、安佐南区光見寺跡などが見つかっています。

安芸国誕生

役所への納め物に付けられた荷札
(府中町下岡田遺跡 府中町教育委員会)



藤原京模型 (奈良国立文化財研究所飛鳥資料館)



役所の瓦
(佐伯区中垣内遺跡)



役人のベルト飾り
(安佐南区権地古墓)

役人の帯に付けられた飾りで、材質と大きさから7位以上の官位をもつ役人のものと考えられます。

8世紀に入り、大宝律令の施行により天皇を中心とした中央集権的な政治支配の体制（律令体制）が確立し、約400年間続いた古墳時代は終わりをつげます。

ひろしまも、律令体制下に組み込まれ、安芸国が誕生しました。

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
プロローグ				
円筒埴輪	池の内第2号古墳	5		広島大学文学部考古学研究室
朝顔形埴輪	池の内第2号古墳	2		広島大学文学部考古学研究室
復元円筒埴輪	三ツ城第1号古墳	5	復元	東広島市教育委員会
復元朝顔形埴輪	三ツ城第1号古墳	2	復元	東広島市教育委員会
I. ヤマトとのつながり—前期—				
斜縁獣帯鏡	中小田第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
管玉	中小田第1号古墳	4		広島大学文学部考古学研究室
有袋鉄斧	中小田第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
短冊形鉄斧	中小田第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
三角縁神獣鏡	中小田第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
三角縁神獣鏡	樺井大塚山古墳	1	複製	山城町教育委員会
三角縁神獣鏡		1	復元	大阪府立近つ飛鳥博物館
環状乳画文帯神獣鏡	宇那木山第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
内行花文鏡片	神宮山第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
玉類(勾玉・管玉・ガラス小玉・算盤玉)	神宮山第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄斧	神宮山第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
石釧	大明地第1号古墳	1		広島県教育委員会
鉄製品	西願寺山墳墓群(D地点)	5		広島県立歴史民俗資料館
準構造船	久宝寺遺跡	1	複製	(財)大阪府文化財調査研究センター
準構造船		1	模型	広島市交通科学館
II. 安芸のまとめり—中期—				
円筒埴輪	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
朝顔形埴輪	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
紡錘車	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
鉄鎌	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
やりがんな	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
器台	三ツ城第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
首飾り(勾玉・管玉)	三ツ城第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
珠文鏡	三ツ城第1号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
円筒埴輪片	西尾古墳	1		広島市矢野公民館
円筒埴輪	池の内第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
冑形埴輪	三ツ城第1号古墳	1		東広島市教育委員会
復元短甲		1	復元	高石市教育委員会
復元冑		1	復元	高石市教育委員会
横刃板鋸留短甲片	西尾古墳	1		広島市矢野公民館
素環頭太刀	地藏堂山第1号古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
素環頭太刀	地藏堂山第1号古墳	2	復元	広島県立歴史民俗資料館
横刃板鋸留衝角付冑	中小田第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄鏃	中小田第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
素文鏡	中小田第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄剣	上小田古墳	2		広島大学文学部考古学研究室
鉄刀	上小田古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄鎌	上小田古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄斧	上小田古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
硬玉勾玉	中小田第9号古墳	4		広島大学文学部考古学研究室
碧玉管玉	中小田第9号古墳	2		広島大学文学部考古学研究室
ガラス小玉	中小田第9号古墳	18		広島大学文学部考古学研究室
鉄鎌	恵下1号古墳	1		広島県教育委員会
鉄鎌	恵下2号古墳	1		広島県教育委員会
勾玉	恵下1号古墳	5		広島県立歴史民俗資料館
管玉	恵下1号古墳	2		広島県立歴史民俗資料館
鉄釧	恵下1号古墳	1		広島県教育委員会
子持勾玉	大久保古墳	1		広島県教育委員会
珠文鏡	大久保古墳	1		広島県教育委員会
内行花文鏡	丸子古墳	1		木村清三氏
四獣形鏡	三王原古墳	1		立専寺

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
------	-----	----	----	-----

Ⅲ. 国家の時代へ ―後期―

陶質土器	白木町	4		鳴戸快三氏
初期須恵器・杯蓋	大庭寺遺跡	1		(財)大阪府文化財調査研究センター
初期須恵器・高杯・蓋	大庭寺遺跡	1		(財)大阪府文化財調査研究センター
初期須恵器・器台	大庭寺遺跡	1		(財)大阪府文化財調査研究センター
初期須恵器・把手付壺	大庭寺遺跡	1		(財)大阪府文化財調査研究センター
初期須恵器・はそう	大庭寺遺跡	1		(財)大阪府文化財調査研究センター
初期須恵器・壺	大明地第3号古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
金環	給人原古墳群	1		広島県立可部高等学校
各種須恵器	給人原古墳群	6		広島県立可部高等学校
勾玉	上ケ原C古墳群	1		広島県立可部高等学校
各種須恵器	上ケ原C古墳群	2		広島県立可部高等学校
提瓶	原迫第1号古墳	1		広島県立可部高等学校
各種須恵器	上ケ原D古墳群	8		広島城
玉類(ガラス小玉・切子玉)	上ケ原D古墳群			広島城
穴窯	松ヶ迫D地点遺跡第1号窯	1	模型	広島県立歴史民俗資料館
須恵器の当て具		2		(財)大阪府文化財調査研究センター
棄てられた須恵器		4		(財)大阪府文化財調査研究センター
杯蓋	月見城遺跡	2		広島県教育委員会
杯身	月見城遺跡	1		広島県教育委員会
はそう	諸木古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
杯蓋	真亀第3号古墳	2		広島県立歴史民俗資料館
杯身	真亀第3号古墳	2		広島県立歴史民俗資料館
坩蓋	真亀第3号古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
横瓶	真亀第3号古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
装飾須恵器	吉舎町	1		広島大学文学部考古学研究室
台付環状瓶	福富町	1		広島大学文学部考古学研究室
鳥形須恵器	下房後第2号古墳	1		広島大学文学部考古学研究室
鳥付子持装飾壺	石塚第2号古墳	1		広島県立歴史民俗資料館
亀形須恵器	一ツ町古墳	1	複製	広島県立歴史民俗資料館
横口式石郭模型	松井塚古墳	1	模型	大阪府立近つ飛鳥博物館
丸瓦	飛鳥寺	1		奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
樋先瓦	飛鳥寺	1		奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
横六式石室模型	御年代古墳	1	模型	広島県立歴史博物館
寺院の瓦	横見廃寺	2		広島県教育委員会
丸瓦	光見寺跡	1		立専寺
平瓦	光見寺跡	1		立専寺

安芸国誕生

役所の瓦	下岡田遺跡	1		府中町教育委員会
木簡	下岡田遺跡	1	複製	府中町教育委員会

展示協力者一覧(五十音順、敬称略)

■機関名

大阪大学工学部笹田研究室 大阪府立近つ飛鳥博物館 苅田町教育委員会 宮内庁書陵部 神戸市教育委員会 (財)大阪市文化財協会 (財)大阪府文化財調査研究センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター 堺市広聴広報課 桜井市教育委員会 世羅町教育委員会

高石市教育委員会 天理大学附属天理参考館 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 東京大学総合研究博物館

奈良県立橿原考古学研究所 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 奈良県立教育研究所 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館

東広島市教育委員会 広島県教育委員会 広島県立可部高等学校 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館 広島市交通科学館 広島市青少年野外活動センター 広島市矢野公民館 広島城 広島市立大学芸術学部デザイン工学科 広島大学文学部考古学研究室 府中町教育委員会 本郷町教育委員会 美原町教育委員会 山城町教育委員会 立専寺

阿部由貴子	有田 貴史	安間 拓巳	池本のり子	泉谷 博幸	井手三千男	伊藤 典子	伊藤 実
■個人名	岩本 圭輔	金織 秀夫	神谷 正弘	上林 史郎	北野 耕平	木村 清三	草場 智子
三枝 健二	坂口 浩司	佐々木慶造	佐藤 利秀	篠原 達也	下広 怜子	杉島 洋	田上 敏文
武田 公紀	中島 正	長嶺 正秀	永見 文人	鳴戸 快三	橋本 達也	橋本 輝彦	橋本 宏明
藤岡 孝司	古瀬 清秀	包丁 道明	松下 孝幸	松林 亮	丸山 祐介	南 昌伸	村上 年生
村上 宣昭	森井 玲子	山口 英正	横谷 貴	若山 裕昭			

1 本書は、平成12年11月18日から12月2日までアステールプラザ1階市民ギャラリーにて開催する第23回文化財展の図録です。

2 展示及び図録の執筆は、プロローグ・第1章は田村規亮が、第2章は榎木敬太が、第3章・安芸国誕生は玉置和弘が担当しました。なお、図録は榎木が編集しました。

3 図録掲載の図版は展示品のすべてではありません。

4 展示および図録の作成にあたっては、多くの機関および個人の方々からご教示・ご協力いただきました。ご芳名を記し、厚くお礼を申し上げます。